

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

発行
2022
5/30

公民館報 まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 61

春爛漫

見上げる先には満開の桜と松本城
めぐって来た春が足取りを軽くする

シリーズ デジタル化 〈第2回〉

松本市のデジタル化

松本市では「DX・デジタル化」を総合的かつ着実に推進するため、令和3年度に「DX・デジタル化推進に関する骨太の方針」を策定しています。

骨太の方針では市民の幸福の最大化を目指し、人口の定常化につなげる「デジタルシティ・松本」のシンカを使命としています。デジタル化により市民の姿がどう変わるのかイメージできるように、6つの目指す姿(VISION)や、共有する7つの価値(VALUE)や、E)を描き、政策立案、システム構築をしていきます。

5つの目指す姿



例えば、令和7年にはマイ

便利なサービスが生まれる

LINEの松本市公式アカウントを立ち上げ、市政情報、観光や地域の情報、非常時の緊急情報などを発信しています。友だち登録は6万人を超え

ました。市民課窓口の混雑状況がリアルタイムで伝わるようにYouTubeでのライブ配信を開始しましたが、市民にはLINEでそのお知らせをしました。

骨太の方針説明動画 QRコード
LINE友だち登録 QRコード

従来のサービスも継続

デジタル化が進むと、デジタル機器が使えない人と使えない人との間に格差が生じるデジタルデバイドという問題が発生します。そこでスマホ体験講座やインターネット講習会などを開き、デジタル機器に不慣れな方へのサポートを行います。合わせて現在の印刷物の配布や対面窓口などのサービスは継続します。今後のデジタル化の浸透度合いを確認しながら、印刷物の配布縮小時期を決めています。



わがまち自慢(新村地区)

新村地区地域学習テキスト「あたらしの郷」完成

「みなさんは新村地区のどんなことを知っていますか?」と始まる新村地区の地域学習テキスト「あたらしの郷」が、令和4年3月に完成しました。全ページフルカラーを採用し、35ページ、A4サイズのテキストです。写真と紙の材質にこだわったそうで、手に取りテキストを開くと納得します。1800部刷ったテキストはすでに新村地区全戸に配布されたほか、希望者多数により増刷したそうです。



あたらしの郷を開くと「ものぐさ太郎」が紹介されています

テキストの構想は平成30年から始まり、途中コロナ禍で中断しましたが、この度ようやく長年の思いがここに完成しました。目次を見ると「新村地区ってどんなところ?」「新村地区のあゆみは」「新村の公共施設・地域諸活動は」「新村の文化財・祭りなどは」「そのほか」となっており、新村地区の歴史から現在に至るまでが分かりやすく解説されています。テキストを監修された編集委員長の関通喜さんは「11人の編集委員の力を借り、ようやく完成しました。やさしい文章で子どもにもわかりやすいようにルビを使って、読みやすいように心がけました。また、このテキストを活用してもらうために、地区内のいろいろな場で使用してもらいたいと考えています。読み聞かせの材料として使ったり、小中学生の授業の中で活用できないか考えています。子どもたちを集めて出前講座なども良いと思います。親から子へと祖先の生き様を学んでもらいたいですね。」と熱く話してくださいました。新村地区の記録として後世に残る一冊です。

視点

⑥ 銭湯を支える若者たち
信州大学
銭湯サークル

響く若者の声

営業が終了した後の銭湯に、タイルを擦る音と、学生たちの声が響きます。信州大学銭湯サークルは、週二回松本市内の銭湯でお風呂掃除、まき割りなどを手伝う活動を行っています。

「若者の力で銭湯業界を盛り上げたい」と、銭湯サークルの志澤啓公しずわ けいこうさんは言います。松本の銭湯は最盛期であった昭和四十八年頃には四八軒もの銭湯がありました。現在、

八つの銭湯が営業を続けています。経営者の高齢化や施設の老朽化など多くの銭湯が経営危機に直面しているのが現状です。

お風呂同好会は数多くありますが、実際にお風呂掃除を手伝う活動は、全国的に珍しいそうです。信州大学銭湯サークルに感化され、京都大学の銭湯サークルがお風呂掃除の活動を始めるなど、松本から波及した取り組みが広がっています。



大正ロマンの富士の湯

住民と若者が残す

かつて住民たちの社交場であり、子どもたちがマナーを学ぶ社会教育の場でもあった銭湯。志澤さんは「常連の地域住民など、さまざまな世代の人と一つの場所と同じ時間を共有できることが一番の魅力」だと語り、「銭湯サークルがすごいのではない。現在まで続く銭湯をもっと取り上げて、町全体で残してほしい。しかし、若い世代が来ないと経営は厳しい」と訴えます。

銭湯は敷居が高いと感じる若者は少なくありません。スランプリリーや空きスペースを使ったイベントなどを企画中です。若者だけでなく全ての人が入りやすい銭湯づくり

に取り組みます。

銭湯サークルの若者を通じて、価値ある場所を見つめ直す。そして地域の方々へ伝え、守り続けられるように声を上げる。それに人々が応えて銭湯へ足を伸ばす。このような循環が、若者を中心として起こっています。

銭湯を訪れ、身も心も温めながら、松本の銭湯を見つめ直してみませんか。



まきで沸かす駒形の湯

写真でつづる
まつもと今昔⑤8

～ 光の回廊 ～



(撮影：2018.4.4)

ライトアップされた外堀通りの桜並木。歩道いっぱいに広がる満開の桜を求めて、たくさんの方が集まって来た。待ちわびた春の到来を喜び、夜になっても花見を楽しむ賑わいがあった。



(撮影：2022.4.11)

わずか4年後の今年。木が衰えたためか、枯れた枝は伐採され少なくなっている。密集して咲いていた花も数が減り、隙間が目立つ。歩道に覆いかぶさるように咲き誇っていた花の枝はもう無い。

おこひる

妻からクリスマスにワイルドストロベリー鉢植えをプレゼントされた。明るい窓辺に置いたが、なかなか大きくならず葉も茎も小ぶりで心配▼水やりやイチゴ専用の腐葉土に入れ替え、冬になるとストープで夜も暖かくした。この頃には、水やりもその日の状態で調整するなど、私の毎朝の日課となった▼春先になると見ちがえるように大きく茂り可憐な白い小さな花が咲いた。朝日に透ける鮮やかな緑葉とのコントラストに、思わずカメラに収めた。しばらくすると花びらの下から小さな薄黄緑のイチゴが顔を覗かせ、妻と「あつイチゴの形をしている」と感動。次から次と花が咲き、見応えある大きな花束のようになった▼遂に真っ赤なイチゴが実った。小さな初物は、しっかりとイチゴ味がして感動。

最近、朝のヨーグルトにちよこんとイチゴが添えられて、甘酸っぱい春を満喫している▼いつの間にか我が家には、バジル、アボカド、コーヒール木が加わり、サステイナブル菜園を楽しんでいる。



概要
 松本城の北東部にある安原地区は人口4,555人、2,265世帯で、最多の1,800人を有する元原町会から52人の中ノ丁町会まで、11町会の規模は多様です。
 桐原分・松本分といわれた元原中原の街並みもあります。昨年武家屋敷の街並みの指定を受けた下級武士の橋倉家などを含む住宅なども保存されています。
 安原地区歴史研究会の格好の教材です。旧松本50連隊跡

歴史探訪
探ろう松本28
市内最多の11の学校を有する 安原地区
 古くは浅葉野の地名でした(信濃地名考)
 武家屋敷や信大病院などの他に水田なども点在します

空き家活用ロケット
 近年問題になっている空き家を活用し、学生と社会人の枠を超えた異世界プロジェクトと銘打ち活動をしていま

さまざまな住民の活動
 福祉ひろば主催の月一回の「お茶カフェあさばの」や、学区を分けての子ども会育成会事業、地域テキストの作成など活動の盛んな安原地区です。
 地区最大のイベントは「あさば野 実りの音楽フェスタ」です。保育園から大学まで、地区内11校のうち、前回は8校の児童生徒約600人が参加した一日がかりの行事です。ジャズ・アニメ・演歌・吹奏楽など、バラエティに富んだ内容です。残念ながらコロナ禍で2年間中止を余儀なくされてはいますが、住民からは再開の声が根強くあります。

今後の課題
 江戸時代に女鳥羽川の氾濫の被害があったのみで、大きな被災のない安原地区では、逆に防災に対する意識が薄いの課題になっています。3ヶ所の避難所を拠点とし、地区内の学校施設なども活用しながら、今後は地区を挙げて防災に取り組む体制をさらに充実してゆく安原地区です。



空き家プロジェクト

今後の課題
 江戸時代に女鳥羽川の氾濫の被害があったのみで、大きな被災のない安原地区では、逆に防災に対する意識が薄いの課題になっています。3ヶ所の避難所を拠点とし、地区内の学校施設なども活用しながら、今後は地区を挙げて防災に取り組む体制をさらに充実してゆく安原地区です。



音楽祭

す。アナログゲーム・ご飯会・仕事ラボ・季節のイベントなどを信大生が中心となり平成28年(2016年)から、活動を続けています。

松本平の野鳥たち

ミンサザイ (撮影: 2022.4.8 安曇野市)

スズメより小さく、クイタダキやエナガとともに小さな野鳥の代表。夏山に住み、冬はふもとに移動することが多く、昆虫などを食べる。小柄な割に大きな声でさえずり、松本地方では「ミソツチヨ」の愛称で親しまれている。

まつもと散歩

澄み渡る空の向こうに
 広がる大きな未来
 こどもの日光の中で

(撮影: 2022.5.5 女鳥羽川・千歳橋)



| | |
|------------|----------|
| 令和4年5月1日現在 | |
| 世帯数 | 2,880 世帯 |
| 男 | 3,261 人 |
| 女 | 3,414 人 |
| 総人口 | 6,675 人 |

島立地区町会連合会長



藤森 潔

この度、島立地区町会連合会長を拝命いたしました藤森潔と申します。

島立地区町内公民館長会長



岩間 勝敬

この度、島立地区町内公民館長会長を務めさせていただきましたこととなりまして、新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから2年が過ぎましたが、未だ収束の姿は見えず、感染症対策を前提にした公民館活動が続いており、当面継続が見込まれると考えています。

足掛け3年に亘るコロナ禍、町会の活動や町会間の結びつきを担う町会連合会の交流事業はことごとく中止を余儀なくされてきました。人流が増す度に拡大する感染者数を鑑みれば完全な終息は難しく、共生(ウィズコロナ)を念頭に事業の内容を検討し直す必要があるかもしれません。難しい事業運営は続きますが、皆様方のご支援、ご協力を賜りながら『安心・安全・快適な島立』を目指して取り組んでまいります。1年間宜しくお願ひ申し上げます。

長会長を務めさせていただきましたこととなりまして、新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから2年が過ぎましたが、未だ収束の姿は見えず、感染症対策を前提にした公民館活動が続いており、当面継続が見込まれると考えています。このような時期に大役をお預かりしますには、経験も知見も不足しておりますが、身の丈に合わせ、より最善な地区活動を追求するべく力を尽くしたいと考えています。地区並びに町内公民館の役員の皆様はじめ関係各位のご支援ご尽力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



公園の桜



如意庵の枝垂桜

松島中学校長



阪口 和彦

今年度より松島中学校の校長として着任しました、阪口和彦と申します。

もとより中学校での勤務が長かったのですが、昨年度までの4年間は小学校で勤務をしていました。久しぶりに中学校勤務となり、校内に響く子供たちの声、制服など、小学校との違いに戸惑いながらもスタートとなっております。落ち着いたら地域を巡り、地域のことを学んでいきたいと思っております。また、子供たちの豊かな成長のため、地域の方々にはお力をお借りしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

島立小学校長



齋藤 令子

この度、島立小学校長として着任いたしました齋藤令子と申します。新型コロナウイルス感染症予防を行いながらの学校生活が続いていますが、毎朝子どもたちと「おはよう」の挨拶を交わすことができることを幸せに感じております。島立小学校のこと、子どもたちのこと、そして学校の周りの地域のこと

をたくさん知りたいと思っております。笑顔で登下校できる、生き生きと学び合える学校づくりに取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

島立地区地域づくりセンター長



伊藤 和宏

今年度より島立地区地域づくりセンター長を務めさせていただきますことになりました伊藤和宏と申します。

堀米保育園長



和田 宏

この度、堀米保育園長として着任いたしました和田宏と申します。地域の皆様には、施設面をはじめ、畑づくりや焼きいも

はじめ、畑づくりや焼きいも、もちつき会などの活動への支援、交流活動や地域行事への参加など、たくさんのお支えをいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。地域の豊かな自然や文化、そして何より人とふれ合うことは、「生きる力の根っこ」につながる貴重な経験となっております。

これからも、地域や保護者の皆様とともに歩む保育園でありたいと考えておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。



タンポポ



ムスカリ

★ 新任職員紹介 ★
「よろしくお願ひします」

福祉ひろば
 コーディネーター
 おおくぼ えみ
大久保 絵実

島立出張所
 つかだ かな
塚田 華奈



チュウリップ

ご入学・ご進級おめでとうございます



今年度も時間を短縮するなど感染症対策を徹底しながらの入学式・入園式となりました。入学・入園された児童生徒・園児の皆様、おめでとうございます。



▲ ハナミズキ
～君と好きな人が～



▲ 豊かな麦秋へ ▲



春を直走る



桜と常念 ▶

子ども食堂と 学習スペース



毎月、第4水曜日の夕方には島立公民館を会場に「ゆるゆる子ども食堂」が開催されています。島立で子ども食堂が始まってから1年が経過し、地域の子も達や保護者にも徐々に認知されてきました。コロナ禍により、食事の提供については、予約制の提供をお持ち帰りいただいています。地域のボランティア有志の方に運営のご協力をいただいたり、松本大学の学生を教えていただいたり、子ども達の遊び相手になっていたなど、支援の輪が少しずつ広がっています。普段は月に1回の子ども食堂も、3月には2回実施し、それぞれ100食以上のお弁当を提供しました。市内の子ども食堂を応援するフードドライブも適宜実施しています。

また、島立公民館では小中学校の長期休業に合わせ、会議室を学習スペースとして開放しています。3月の春休み期間中には計5日間、約20人の利用がありました。子ども達の居場所づくりとして今後も実施予定です。



ゆるゆる子ども食堂

【日時】

原則毎月第4水曜日
16時00分～18時30分

※第4水曜日が休日等の場合は変更あり

【会場】

島立公民館

【内容】

食事の提供と学習支援
※食事の提供についてはお弁当の持ち帰り（要予約）
※新型コロナウイルス感染症状況により公民館が利用できない場合は学習支援のみ中止